

平成 30 年度有害性評価小検討会における指摘事項

本年度の有害性評価小検討会において、リスク評価に係る有害性評価の方法に関し、以下の点について、ガイドラインの改定も含め検討すべきとの指摘があった

1. 動物試験の結果、NOAELとLOAELが得られ、その差が10倍に満たない場合、LOAELから不確実係数1/10を掛け求められたNOAELの方が、試験結果から直接得られたNOAELより小さくなることがある。このような場合、試験結果から得られたNOAELとLOAELのいずれを採用すべきか、重篤度も踏まえ、判断すべきではないか。
2. 一次評価値について、現行の「リスク評価の手法」では、発がん性を考慮して評価を行うことが必要な物質の場合、発がん性以外の有害性は考慮されていない。発がん性以外の有害性から求められた評価レベルが、発がん性から求められた評価レベル又は過剰発生率 10^{-4} に対応する濃度より低くなる可能性もあり、見直しが必要ではないか。